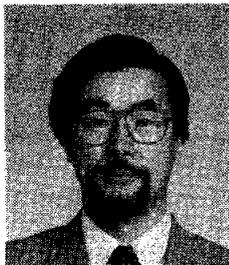


拡大するサホロリゾート

危惧される環境保全

寺島 一男



てらしま かずお
1944年北海道生まれ。
北海道旭川工業高等学
校教諭。「大雪縦貫道路」
問題で自然保護運動に入り
1972年「大雪と石狩の
自然を守る会」を設立、
代表を務める。本協会理
事。
著書に『大雪、日高、
と北海道の名山』、『神々
の遊ぶ庭』など。

◆スケールアップされた拡張計画

新日本八景の一つ、狩勝峠の景観がまた変わろうとしている。佐幌岳とその山麓に広がるサホロリゾートが、スキー場・ゴルフ場を中心に大々的な拡張工事を実施しようとしているからだ。大々的というのも、これまでの一五六haの施設敷地面積が、一挙に六倍の九六二haに広がるからである。この中には、佐幌岳南東斜面のスキークースとその下部のゴルフ場計画、およびこれらに付帯するホテル・展望レストランなどの施設が入っており、完成すれば狩勝峠から一望されるのである。

計画は、サホロススキー場・サホロカントリークラブ・ホテルサホロ・地中海クラブ等の既存施設を南北に拡張して、通年型リゾートエリアをつくり出すことがねらい。完成予定は平成一三年度で、ベッド数五五〇〇、日最大入り込み者数一万二〇〇〇人、年間入り込み者数を一〇〇万人と見込んでいる。実施されれば計画面積二二〇〇haの、およそ四四％が開発されることになる。すでに道の環境アセスメント条例に基づく調査・縦覧も終えて、着工目前の状況にある。

◆サホロリゾートの概要と経緯

佐幌岳は狩勝峠の北に聳える、標高一、〇五九mの日高山系の山だ。大雪山系を結ぶ要衝の山である。サホロリゾートは、この山の新得町側、通称狩勝高原と呼ばれる標高約三〇〇mの山麓部から、山頂部にかけて開発が進められている。開発の事業主体は西武セゾングループだ。現在、この地域の固有林については昭和五〇年に林野庁の「野外スポーツ林」の指定を、リゾートエリアについては平成元年に「北海道富良野・大雪リゾート地域」の一つとして、

リゾート法の指定を受けている。

開発の発端は、昭和五三年に新得町がSLホテルやテニスコートを整備し、狩勝高原をレクリエーション基地として整備しようとしたことに始まる。昭和五五年、スキーレジャーのデベロッパ三栄スポーツ産業(株)の子会社で、旭川にスキー場を持つ(株)台場ケ原サンパレーがスキー場を開設した。翌年、西武セゾングループの(株)西洋環境開発がこれに加わり、(株)サホロリゾートを発足させた。(株)サホロリゾートは現在、(株)西洋環境開発の一〇〇％出資会社となっているが、一時「SDI」(西武・台場ケ原・インターナショナルの略)と社名を変えたこともある。

昭和五七年、第三セクターとして狩勝高原開発(株)が設立され、狩勝コンチネンタルホテルがオープン。昭和六二年、新得町がサホロリゾートの核となる地中海クラブの誘致に成功し、セゾングループの提携のもとに「クラブメッド・サホロ」(通称バカンス村)が開村した。この年サホロカントリークラブも買収され、スキー場・ホテル・ゴルフ場の三点セットを基本とした、サホロリゾートの本格的な稼働が始まったのである。現在、(株)西洋環境開発が総合デベロップメントを、(株)サホロリゾートが運営面を分担する形で経営されている。地中海クラブの誘致には、新得町の他に歌志内市など全道八市町村が名乗りをあげ、誘致合戦を繰り広げたが、新得町が道路・上下水道・グレンデ整備・ロッジの建設・体育館など総額一五億円に上る基盤整備を先行投資し勝ち抜いた。

◆肥大化するリゾートコンビナート

サホロリゾートは、佐幌岳を中心に四つのエリアに分けて施設計画の整備を進めている。佐幌岳山腹

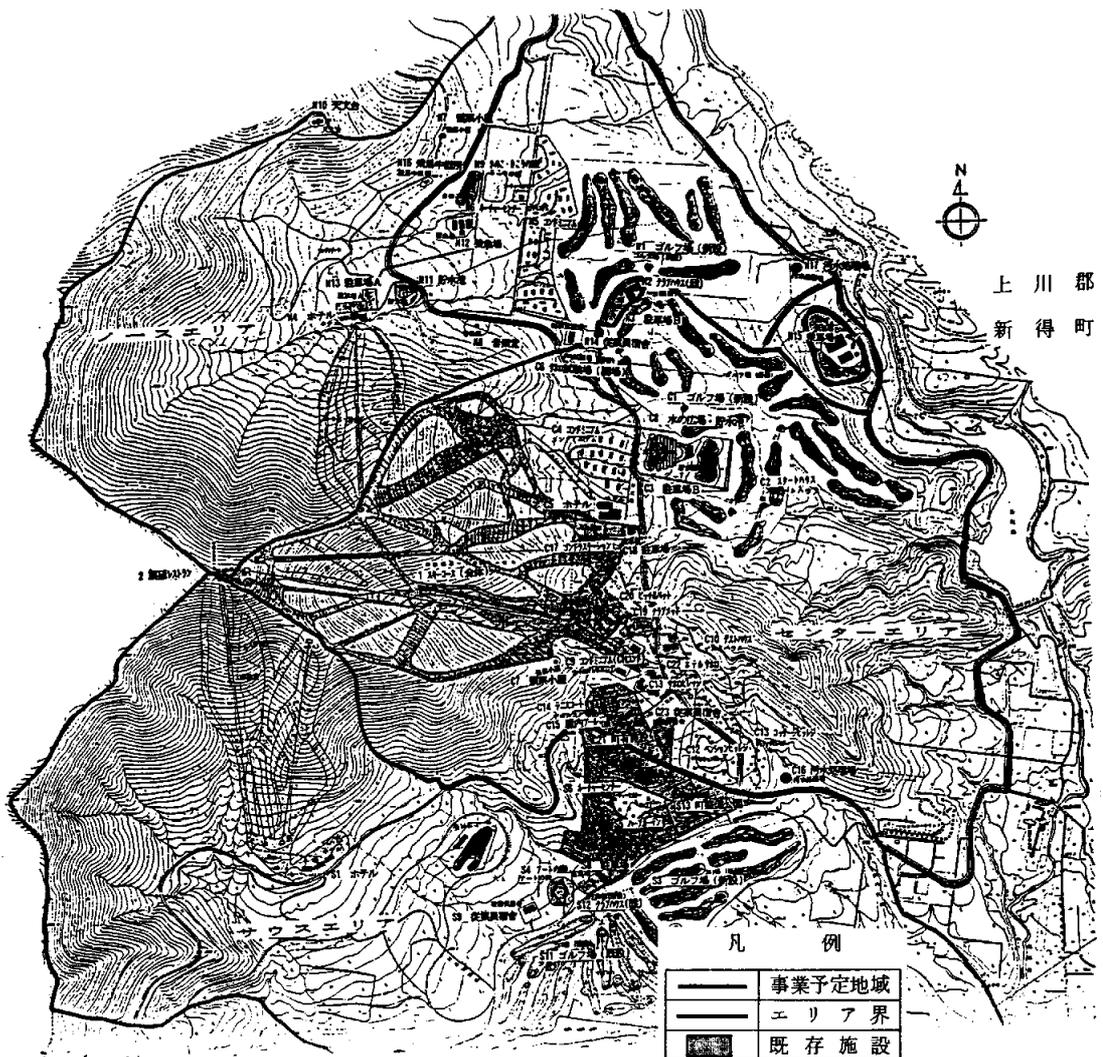


図1 サホロリゾート施設配置図

のスキーエリア、北側山麓のノースエリア、東側山麓のセンターエリア、南側山麓のサウスエリアである。スキーエリアは、既存の東側コースを中心に、北東斜面と南東斜面に新たにゲレンデコースが開かれるほか、山頂に展望レストランがつくられる。センターエリアは、現在のゴンドラステーション・クラブメッド・ホテルサホロ・駐車場・町有施設などがあるところで、新規に一八ホール・一三五haのゴルフ場、水の広場・貯水池、コンドミニウム、各種ビレッジなどがつくられる予定だ。

ノースエリアは、ほぼ全域が新規開発で、九ホール・九五haのゴルフ場、ホテル、コンドミニウム、乗馬場、養魚場、駐車場などが予定されている。

サウスエリアは、既存の一八ホール・九〇haのゴルフ場、町整備公園などを中心に、九ホール・五〇haのゴルフ場、BMXコース、コンドミニウム、アーの森、ネーチャーセンター、ホテル、ハーブガーデンなどが新設される。（「施設計画と事業スケジュール」参照）

一見すると多彩な施設内容となっているが、骨組みはスキー場・ゴルフ場・ホテルのいわゆるリゾート三種の神器からなっている。既設・新設合わせて、スキー場は三か所・七七三ha。ゴルフ場は四か所・五六ホール・三七〇ha。ホテルは、コンドミニウム・ゲストハウス・ペンションビレッジ・コテージビレッジを含めて八五八ルーム・一三四棟・五二〇〇名である。この点では、地中海クラブのG方式ともいべき独自の運営方式がある以外は際立ったコンセプトもなく、差別化はない。

◆危機にさらされる高山植生

さて、今回の拡張計画について、環境保全の面

■ 施設計画と事業スケジュール

 既存施設

エリア	番号	施設名	敷地面積	施設規模	建築面積	実施年度(平成年度)												備考	
						3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
スキー	1	スキーコース(全体)	373.4 ha			○	○												
	2	展望レストラン	ゲレンデ内	200席、2階	320㎡														
セ	C1	ゴルフ場	135.0 ha	18H			○	○											
	C2	スタートハウス	ゴルフ場内		1,000㎡				○	○									
	C3	駐車場B	ゴルフ場内																
	C4	コンドミニアム	13.5 ha	15棟、500名、4階	5,500㎡			○	○										
	C5	ホテル	2.0 ha	250R、500名、4階	8,000㎡							○	○						
	C6	サホロ試験場(園場)	5.0 ha																
	C7	観察小屋	0.2 ha	1棟、インセクトガーデン	15㎡														
	C8	水の広場・貯水池	2.0 ha															貯水量 22,000㎡	
	C9	コンドミニアム(CMコンド)	0.9 ha	2棟、400名、3階	4,000㎡														
	C10	ゲストハウス	10.0 ha	15棟、300名、2階	5,500㎡														
	C11	サホロビレッジ	3.0 ha																
	C12	ペンションビレッジ	9.0 ha	13棟、450名、3階	1,700㎡														
	C13	コテージビレッジ	8.0 ha	30棟、150名、1階	2,200㎡														
	C14	テニスコート	1.5 ha	18面															
	C15	屋内プール	0.2 ha	25m、8コース	1,000㎡														
C16	汚水処理場	0.1 ha		250㎡															
ア	C17	バンダラスターション	0.2 ha	2棟	2,600㎡														
	C18	駐車場	5.0 ha	乗用車1000台、バス20台															
	C19	クラブハウス	0.9 ha	216R、400名、4階	8,700㎡														
	C20	ビッチャムパット	3.0 ha	9ホール															
	C21	町有施設	7.8 ha		2,900㎡														グラウンド、体育館、テニスコート等
	C22	ホテルサホロ	3.5 ha	165R、500名、2階	6,000㎡														
	C23	従業員宿舎	2.0 ha	300R、300名、2階	4,500㎡														
	S1	ホテル	5.0 ha	100室、500名、4階	2,500㎡														
	S2	コンドミニアム	33.0 ha	17棟、500名、2階	1,200㎡														
	S3	ゴルフ場(新設)	50.0 ha	9H															
サ	S4	アートの森	2.0 ha																
	S5	ハーブガーデン	1.8 ha	レストラン1棟、60席	500㎡														
	S6	ネイチャーセンター	3.5 ha		6,500㎡														
	S7	BMXコース	5.0 ha																
	S8	駐車場	1.0 ha	乗用車300台															
	S9	従業員宿舎	1.0 ha	100R、100名、2階	2,000㎡														
	S10	汚水処理場	0.1 ha		250㎡														
	S11	ゴルフ場(既設)	90.0 ha	18H															
	S12	クラブハウス(既設)	ゴルフ場内	1棟	1,000㎡														
	S13	町有公園	46.0 ha		1,700㎡														フィールドアスレチック、ソフト クォーターガーデン、福祉 施設工場等
ノ	N1	ゴルフ場	95.0 ha	9H															
	N2	クラブハウス	ゴルフ場内		3,000㎡														
	N3	駐車場B	ゴルフ場内	乗用車300台															
	N4	ホテル	0.7 ha	125室、250名、4階	3,500㎡														
	N5	コンドミニアム	6.0 ha	750名、42棟、2階	15,300㎡														
	N6	ネイチャーセンター	0.5 ha		500㎡														
	N7	観察小屋	0.1 ha		150㎡														
	N8	音楽堂	2.0 ha		1,000㎡														
	N9	きのこ・きこりの森	10.0 ha																
	N10	天文台	0.1 ha		100㎡														
	N11	貯水池	2.0 ha																貯水量 22,000㎡
	N12	養魚場	1.5 ha	採卵・孵化施設1棟	700㎡														
	N13	駐車場A	1.0 ha	乗用車300台															
	N14	従業員宿舎	1.0 ha	100R、100名、2階	2,000㎡														
	N15	乗馬場	14.0 ha	厩舎1棟、レストハウス1棟	500㎡														馬10頭飼育
	N16	乗馬場中継所	0.7 ha	レストハウス1棟	250㎡														
	N17	汚水処理場	0.1 ha		250㎡														

(出典:「狩勝高原サホロリゾート開発事業に係る環境影響評価書」)

問題となる点をいくつかあげてみる。第一は、スキー場を中心とした佐幌岳南東斜面の開発である。佐幌岳山頂から国道三八号線に向かって、ゲレンデコースが開かれ、リフト・ゴンドラがかけられる。山頂部には展望レストランがつくられ、下部のベースエリアには、四階建五〇〇名収容のホテルが建てられる。狩勝峠から一望されることは、当の環境影響評価書が示している。

この辺りの植生は、山頂部から標高八〇〇m付近までがササ群落と高山低木群落。標高約六〇〇m付近までがダケカンバ林。国道のある標高約五〇〇m付近までがトドマツ・カラマツの造林地となつているが、全体としては狩勝峠から続くダケカンバ林の外観を示している。このダケカンバ林は再生林ではあるが、日高山脈に共通する一つの代表的植生で、景観的にも美しい。佐幌岳山頂一帯は、コケモモ・トカチフクロ・ミヤマオダマキ・ハクサンチドリなどの高山性植物が低木の中に群落を形成しており、これらは山頂部や稜線のごく限られた部分にしか存在しておらず、佐幌岳の植生の中では貴重な存在となつている。また、ヒメギフチョウの食草として知られるオクエゾサイシンも確認されている。南東面の開発は、これらの植生や景観を著しく損なう可能性が強く、特に山頂部にまで延びるゲレンデ・展望レストランなどの施設は、高山性植物群落を潰滅的状況にする恐れがある。狩勝峠からこの辺り一帯にかけては、急斜面で冬期に雪崩等が発生しやすく、下部の中腹を国道三八号線が通っており、防災上の見地からも好ましくない。

◆危険される水源地汚染

第二は、北東斜面および山麓の開発である。傾斜

一五度〜三〇度の山地斜面にスキーゲレンデ、下部の一〇度前後の緩斜面には二カ所、計二七ホール・二三〇haのゴルフ場が造成される。この山麓部一帯は、ほぼ全域がカラマツ（北斜面）、トドマツ（東斜面）を主体とした造林地になつている。東斜面の一部にササ原の無立木地になつているところもあるが、全体的には大変よく生長している。年齢の若い樹が多いが、ところによっては高さが一〇m前後になつている林もあり、水源涵養をはじめとする環境林としての役割も増大している。この区域には佐幌川の支流の上新内川・北新内川・新幌川など数本の河川が走っており、この沢沿いにはシナノキ・ホオノキ・イタヤカエデ・オニグルミ・ヤチダモ・ミズナラなどの広葉樹を主体にした立派な河畔林が出現している。大規模なゴルフ場の造成は、育成に時間をかけ比較的良好な状態にあるこの造林地の大半を無にしてしまう。ゴルフ場に包囲された支流河川と河畔林は、周囲との関連を断ち切られて、変質したり弱体化する可能性もある。

さらに危険されることはゴルフ場の農業、地盤凝固剤、土壌改良剤などによる河川の汚染だ。この辺りの集水域がすべて佐幌ダムを中心とした佐幌川に集中しており、森林の減少により一時的な出水も高まることも考えられる。佐幌川上流部の水源地帯であるだけに、その影響が心配される。計画によるとゴルフ場の農業年間使用量は、殺菌剤四種類五四六kg・一六八ℓ、殺虫剤一種類五〇ℓ、除草剤一種類一四ℓとなつているが、他ゴルフ場の実態からすればこれらの数字は単なる目安にすぎない。ゴルフ場が、自然の土壌とは似ても似つかぬ、排水第一主義の「砂構造」であることを考えれば、水源汚染の可能性は極めて高い。また、農業とは別に、最近ゴ

ルフ場の造成に伴って大量に使用される、地盤凝固剤や土壌改良剤の高分子系剤やゼオライトの汚染問題も指摘されており、この面の心配も残されている。

◆打撃を受ける野生生物

サホロリゾートの環境影響評価書によると、事業予定地域に生息する動物類は、哺乳類九科二〇種・鳥類五科六二種・両性類爬虫類五科七種・陸性昆虫一一七科六三四種・水性昆虫六目四六種・魚類三科六種が確認されており、全体として豊かな生物相を示している。この中には「特定昆虫類」のエゾチツチゼミ・チャマダラセセリ・カラフトタカネキマダラセセリ・ヒメウスバシロチョウ・シロオビヒメヒカゲ・オオルリオサムシ・アイヌキンオサムシが含まれているほか、地元の研究者によってヒメギフチョウの確認もされている。また環境影響評価書では、現在は生息していないものと思われるとしてエゾナキウサギが、やはり地元の研究者の調査によって、圏域内のガレ場に小規模に生息していることが確認視されている。これらがスキー場・ゴルフ場の造成によって環境の変化が生じ、大きな影響を受けることは充分考えられる。ゴルフ場の農業も、一般的には散布時に二割程度は空中に漂うとされており、この面の心配も消えない。

◆深刻化する環境汚染

バブル経済の崩壊によって、狂乱のリゾート開発は全国的にはやや陰りを見せ始めている。これまでに破綻したり中止になったゴルフ場やリゾート開発も少なくない。北海道でもその傾向は見られるものの、本州各地に比べるとそのテンポははるかにのろい。農林漁業の不振、相次ぐ炭鉱の閉山等で一次産

業の先行き不安を抱える各市町村が、依然としてリゾート開発に地域振興の期待をかけているからだ。安い地価、まとまって買える広大な土地、その割には良質な自然、空路や道路網の整備による交通手段の拡充などが、リゾート企業の進出を助長している。リゾート法は依然として残っているし、北海道のアセスメント条例やゴルフ場規制要綱など、環境に関する法規制はきわめて甘い。その虚をついて、規制強化ではみ出された本州各地のゴルフ場が、北海道に流れ込む様相さえ見え始めている。だが、北海道といえどもゴルフ場を含めてリゾート開発は過剰であり、生き残りの戦いはすでに始まっている。多様化・高級化・大規模化・差別化など様々な方策が語られるが、本質的には「不動産リゾート」の枠を出ていない。当面、大規模化した大手資本のリゾートが生き残るだろうが、このようなリゾートによって自然の寡占化・環境の悪化・自治体の従属化などが出てこよう。サホロリゾートの拡張は、すでにその方向を指し示している。



写1 現有宿泊施設（拠点地域）
左、クラブメッドサホロ、右上上方の道路は国道38号線



写2 現有ゴルフ場（佐幌岳南側山麓）
中央の屋根の建物がクラブハウス



写3 新設ゴルフ場予定地（佐幌岳東側山麓）
右上上部は佐幌湖、ゴルフ場の他に乗馬場、水の広場が予定されている。



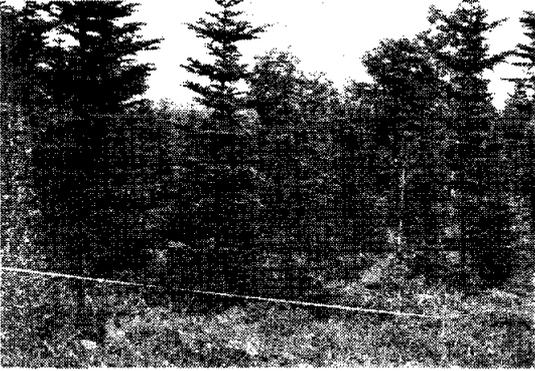
写4 現有スキー場概観（新内牧場側より）
佐幌岳北斜面に新設予定のグレンデは、この右手裏側になる。



写5 新設ゴルフ場予定地（佐幌岳北東山麓）
カラマツの造林地



写6 新設ゴルフ場予定地（佐幌岳北東山麓）
カラマツの造林地内部



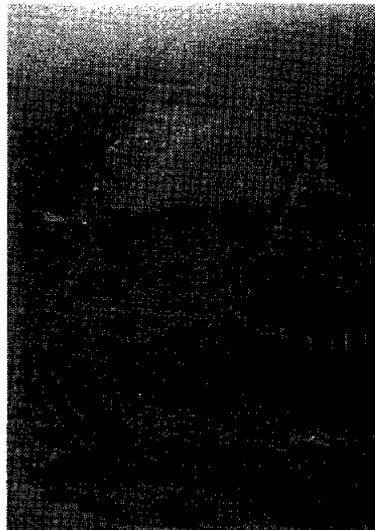
写7 新設ゴルフ場予定地（佐幌岳東側山麓）
トドマツ造林地



写8 新設ゴルフ場予定地（佐幌岳東側山麓）
無立木地（ササ原）



写9
新設ゴルフ場予定地内を流れる河川（河畔林）が
残されている。美しい自然林（河畔林）



写10
現有スキー場コース
佐幌岳東斜面最上部



写11 佐幌岳山頂部の高山植物群
(ミヤマオダマキ)



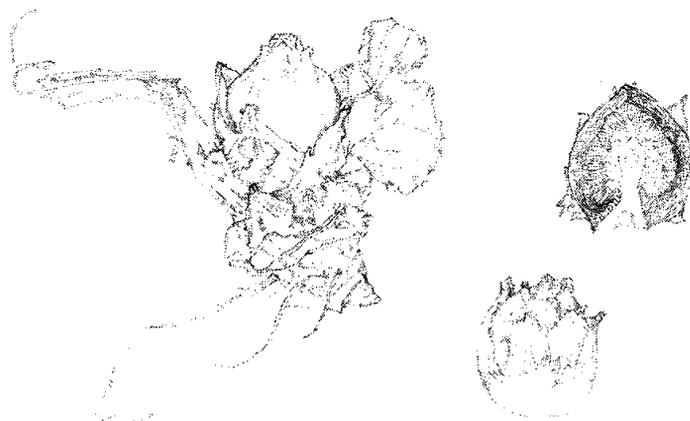
写12 佐幌岳山頂部の高山植物群
(ハクサンチドリ)



写13 ゴルフ場予定地の佐幌岳北東・東山麓一帯



写14 新設スキー場予定地(佐幌岳南斜面)
狩勝峠より見た南斜面、写真中央にゲレンデが造成される。



フキノトウの芽・フキ